

蜜蜂と遠雷

思田塗

幻冬舎

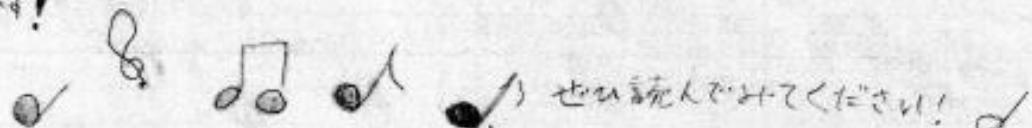
この本は日本で行なわれる、国際ピアノコンクールが舞台になっています。主な登場人物は4人。表舞台から姿を消していた、かっての神童、栄伝亞夜。アマチュアレベルのお父さん高島明石。ピアノ界の若きスター マサル・カルロス・レヴィ・アナトール。クラシックピアノ界の巨匠からの推薦証もある 風間慶。私は、この本を読み、クラシックピアノの曲をいくつか聴いてみました。そうしたら、知らない曲ばかりでおどろきました。けれども、作曲家には何人が知ってる人がいて、親近感がわき、もっと聴いてみたいと思います。

そしてこの本は、クラシックピアノの曲に私を結び付けてくれただけではなく、コンクールを動かすことの大変さ 審査員の人達のことなどについてもふれていて、いろんな人が支えてくれているからこそ、コンテストが輝けるんだなど、あらためて、裏方の人達のありがたさも分かりました。舞台は優雅に見ても、衣装の用意や練習など、彼らはピアノのために、何といくつ犠牲にしてきたのだろか。スポットライトで照らされていない暗い部分を知れてよかったです。

亞夜ちゃん達は、自分の手に耳に何を感じて、今ピアノを続けているのだろうか。亞夜ちゃんは実際には居ないが、毎日毎日ピアノの前にすわり、譜面を何度も何度も。さら、ていく人達は、居ると思われる。その子達は、小さいころから、ピアニストになりたいと、将来の夢を決めているのかと知りたりです。私は将来はなんばに生きていよいよ嬉しいのに、「神童」と呼ばれる同じ位の子は、ピアニストになるのだと決めている。好きなこと、自信のあることなら、将来の夢を決めてしまえるのかと思つからざる。

新型コロナウイルスのため学校が休校になってしまい、長いと思い読んでいたこの本を手放しました。本は現実とは別の楽しい世界に連れて行ってくれます。なので1日まとめて読み続けた日もありました。私にとってこの休校中は本の必要性を感じた重要な時間でしたのかなと思いました。

本は私に楽しい、悲しい、ふしそうい世界に過去、未来を連れていくれる新幹線の様な存在です！



こんな本読みました

国分寺市はらはら文庫 6年 小坂由羽